

放送設備保守点検業務仕様書

1. 目的

久留米シティプラザに設置された東・西棟パナソニック製放送設備の保守点検を定期的に行うことにより正常かつ良好な作動状況を維持する。

2. 対象機器

業務対象とする機器は、東・西棟パナソニック放送設備。別紙「久留米シティプラザ施設設備台帳」参照のこと。

3. 業務内容

別紙「東・西棟放送設備保守点検仕様書」「東・西棟放送設備点検チェックシート」に基づき点検2回/年実施する。

4. 非常要請対応

メーカーによる非常要請受付、対応メーカー営業日9時～17時

非常放送部機器点検（年2回）（消防庁告示第14号非常用放送設備の点検要領による）

点検項目	点検方法	判定方法
増幅器、 操作部及び 遠隔操作器	周囲の状況	目視により確認する。 ア 周囲に使用上及び点検上必要な空間が確保されていること。 イ 操作部又は遠隔操作器のうち一のは、常時人がいる場所であること。
	外形	目視により確認する。 変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。
	表示	目視により確認する。 ア スイッチ等の名称等に汚損、不鮮明な部分がないこと。 イ 銘板等がはがれていないこと。
	電圧計	目視により確認する。 ア 変形、損傷等がないこと。 イ 電圧計の指示値が所定の範囲内であること。 ウ 電圧計のないものにあつては、電源表示灯が点灯していること。
	スイッチ類	目視及び開閉操作により確認する。 ア 端子の緩み、発熱等がないこと。 イ 開閉位置及び開閉機能が正常であること。
	保護板	目視により確認する。 変形、損傷、脱落等がないこと。
	ヒューズ類	目視により確認する。 ア 損傷、熔断等がないこと。 イ 回路図等に示された所定の種類及び容量のものが使用されていること。
	継電器	目視及び試験装置等により確認する。 ア 脱落、端子の緩み、接点の損傷、ほこりの付着等がないこと。 イ 確実に作動すること。
	計器類	電圧計及び出力計をスイッチ等の操作及び放送することにより確認する。 指針の作動が正常であること。
	表示灯	スイッチ等の操作により確認する。 著しい劣化等がなく、正常に点灯すること。
	結線接続	目視及びドライバー等により確認する。 断線、端子の緩み、脱落、損傷等がないこと。
	接地	目視又は回路計により確認する。 著しい腐食、断線等の損傷がないこと
	回路選択	階別選択スイッチは報知区域ごとに操作しまた一斉放送スイッチを操作することにより確認する。 選択された回路及び関連する階別作動表示灯並びに火災灯が正常に点灯すること。
	2以上の操作部又は遠隔操作器	操作部又は遠隔操作器を相互に作動させることにより確認する。 一の操作部又は遠隔操作器を作動させた場合、相互の機能が遠隔操作器の表示が適正であること。
遠隔操作器の連動	操作部及び遠隔操作器のいずれかの操作スイッチを操作することにより確認する。 ア 操作部及び遠隔操作器の継電器、モニタースピーカー出力計等が正常に作動すること。 イ 遠隔操作器の起動操作により、一斉放送が確認できること。 ウ 遠隔操作器の回路選択スイッチの操作により任意の階に放送できること。 エ 遠隔操作器のモニタースピーカーにより、放送内容の確認ができること。	

増幅器、 操作部及び 遠隔操作器	非常用放送切替	一般放送状態にして おき非常用放送を 行うことにより確認 する。	一般放送から非常用放送に確実に切り替わり かつ手動により復旧しない限り、 非常用放送の状態が正常に継続作動すること。
	地震動予報等に 係る放送切替	地震動予報等を行う 放送状態にしておき、 火災放送を行うこと により確認する。	地震動予報等に係る放送を行っている間に、 起動装置若しくは操作部を操作した場合 又は自動火災報知設備等からための信号を 受信した場合には、地震動予報等に係る放送が 終了したのち、直ちに、かつ、自動的に非常 警報の放送を行うこと。
	回路短絡	警報音を放送した 状態で、回路短絡 を行うことにより 確認する。	短絡した回路にあつては、短絡保護回路が遮断し、 かつ、短絡した旨の表示 がされるとともに、 他の回路には異常がなく放送されていること。
	音声警報音	起動操作すること により確認する。	感知器発報放送、火災報放送及び非火災報放送の音声警 報音に著しい歪み及び音圧低下がないこと。 ※音響装置を付加したものにあつては、 「連動停止」の状態で行うこと。
	火災音信号	起動装置を操作す ることにより確認する。	火災音信号に著しい歪み及び音圧低下がないこと
	マイクロホン	操作部等において音声 警報音を鳴動 させて マイクロホンによる 放送を行うことにより 確認する。	マイクロホンによる放送の起動と同時に音声警報音が 停止すること。 また、マイクロホンによる放送が終了と同時に、 音声警報音が鳴動開始すること。
	予備品等	目視により確認する。	ヒューズ、電球等の予備品、回路図、取扱説明書等が 備えてあること。
スピーカー	外形	目視により確認する。	変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
	取付状態	目視により確認する。	脱落、緩み等がなく、音響効果を妨げるものがないこと。
	音圧等	操作部又は遠隔操作 器の操作により確認 する。	音圧及び音色が他の機械等の音と区別して 聞き取れること。
	鳴動	所定の操作により、 鳴動方式を確認する。	ア 一斉鳴動の場合 全館のスピーカーが一斉に鳴動すること。 イ 区分鳴動の場合 次に示す区分鳴動ができるとともに、 一定の時間が経過した 場合又は 新たな火災信号を受信した場合には、 自動的に全館一斉鳴動すること。 (ア) 出火階が2階以上の場合 出火階とその直上階 (イ) 出火階が1階の場合 出火階とその直上階及び地階 (ウ) 出火階が地階の場合 出火階とその直上階及びその他の地階 ウ 相互鳴動の場合 2以上の操作部又は遠隔操作器が設けられている 防火対象物のスピー カーは、いずれの操作部又は 遠隔操作器からも鳴動できること。 エ 再鳴動の場合 再鳴動機能を有するものは、機能が正常であること。
	音量調整器	非常放送状態で 音量調整器を操作 し確認する。	音量調整器の調整位置にかかわらず、 非常用放送が有効に行われること。

総合点検（年2回）（消防庁告示第14号非常用放送設備の点検要領による）

点検項目	点検方法	判定方法
音響装置およびスピーカーの音圧	音響装置およびスピーカーの取り付けられた位置の中心から前面1mの位置で騒音計（A特性）により確認する。	ア ベルおよびサイレンの音圧が90dB以上であること。 イ スピーカーの音圧はL級で92dB以上M級で87dB以上 ウ 音声警報音を発する放送設備のスピーカーの音圧は第2シグナルにより測定すること。
総合作動	非常電源に切り替えた状態で、任意の起動装置もしくは操作部の非常放送スイッチを操作し、または自動火災報知設備から起動のための信号を受信することにより確認する	火災表示および音響装置並びにスピーカーの鳴動が正常に行われること。

業務放送機器点検（年2回）（消防庁告示第14号非常用放送設備の点検要領による）

点検項目	点検方法	判定方法	
ミキサーユニット	外形	目視により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。
	ボリューム及びスイッチ類	目視及び操作により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。 ボリューム操作時ざらつきが無いこと。
	出力	モニターにて確認	音に歪等が無いこと。 雑音の混入が無いこと。 音量が適正なこと。
デジタルICレコーダー	外形	目視により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。
	スイッチ類	目視及び操作により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。 スイッチの目的に合った動作をすること。
	出力	モニターにて確認	音に歪等が無いこと。 雑音の混入が無いこと。 音量が適正なこと。
CD/CFレコーダー	外形	目視により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。
	スイッチ類	目視及び操作により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。 スイッチの目的に合った動作をすること。
	出力	モニターにて確認	音に歪等が無いこと。 雑音の混入が無いこと。 音量が適正なこと。
プログラムコントローラー	外形	目視により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。
	スイッチ類	目視及び操作により確認する。	変形、損傷、脱落、著しい腐食等がないこと。 スイッチの目的に合った動作をすること。
	プログラム接点の確認	パソコンを接続しプログラムの確認する。 起動をかけ各機器の作動確認。	プログラム内容を一覧表示し異常が無いこと。 作動エラーが無いこと。 正常に作動すること。

非常警報器具及び設備点検票										別紙19-②	
名称						防火管理者				㊟	
所在						立会者				㊟	
点検種別		機器・総合				点検年月日		平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			
点検者		資格 番号				点検者		社名			TEL
		氏名						所属会社		住所	
点検設備名		操作部・複合装置		製造者名 型式等			増幅器			製造者名 型式等	
点検項目						点検結果				措置内容	
						種別・容量等の内容		判定	不良内容		
機器点検											
非常電源 (内蔵型)		外形									
		表示				備考1					
		端子電圧		DC		V					
		切替装置									
		充電装置									
結線接続											
非常ベル・自動式サイレン	起動装置		周囲の状況								
			外形								
			表示機能								
	操作部・複合装置		外形								
			表示								
			電圧計				V				
			スイッチ類								
			ヒューズ類				A				
	サイレン		継電器								
			表示灯								
			結線接続								
			接地								
	ベル・サイレン		予備品等								
外形											
取付状態											
音圧等											
表		鳴動方式				一斉 区分 相互 再鳴動					
		表示灯									

- 備考
1. この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2. 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 3. 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 4. 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 5. 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

放 送 器 等 備	起 動 装 置	周 囲 の 状 況			
		外 形			
		押 し ボ タ ン 等			
		発 信 機 ・ 非 常 電 話			
		自 動 火 災 報 知 設 備 と の 連 動			
	増 幅 器 等	周 囲 の 状 況			
		外 形			
		表 示			
		電 圧 計			
		ス イ ッ チ 類			
		保 護 板			
		ヒ ュ ー ズ 類	A		
		継 電 器			
		計 器 類			
		表 示 灯			
		結 線 接 続			
		接 地			
		回 路 選 択			
		2 以 上 の 操 作 部 等			
		遠 隔 操 作 器 の 連 動			
非 常 用 放 送 切 替					
回 路 短 絡					
音 声 警 報 音					
火 災 音 信 号					
マ イ ク ロ ホ ン					
予 備 品 等					
ス ピ カ 音 量 調 整 器 表 示 灯	外 形				
	取 付 状 態				
	音 圧 等				
	鳴 動 方 式	一 斉 区 分 相 互 再 鳴 動			
	音 量 調 整 器				
警 鐘 ・ ゴ ン グ 等	周 囲 の 状 況				
	外 形				
	機 能				

- 備考
1. この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2. 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 3. 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 4. 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 5. 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

総 合 点 検																																	
音響装置・スピーカーの音圧	dB																																
総 合 作 動																																	
備	スピーカー設置数量																																
考																																	
測定機器	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>機 器 名</th> <th>型 式</th> <th>校正年月日</th> <th>製造者名</th> <th>機 器 名</th> <th>型 式</th> <th>校正年月日</th> <th>製造者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名																								
機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名																										

- 備考
1. この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2. 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 3. 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 4. 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 5. 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

配 線 点 検 票								（設備名：非常警報器具及び設備）	
名 称							防 火 管理 者	㊟	
所 在							立 会 者	㊟	
点検種別	総 合		点検年月日	平成 年 月 日～平成 年 月 日					
点 検 者	資格 番号		点 検 者	社名		TEL			
	氏名			所 属 会 社	住所				
点 検 項 目			点 検 結 果				措 置 内 容		
			種別・容量等の内容	判 定	不 良 内 容				
総 合 点 検									
専 用 回 路				○					
開 閉 器 ・ 遮 断 器				○					
ヒ ュ ー ズ 類				○					
絶 縁 抵 抗			常用 MΩ 非常 MΩ	○					
耐 熱 保 護				○					
備 考									
測 定 機 器	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名	

- 備考
1. この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2. 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 3. 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 4. 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。